

レトロウイルスに関する研究
(分担研究：川崎病の病因および発症機序に関する)
免疫病理学的研究

吉田 光昭

要約 川崎病患者のリンパ球を培養し、逆転写酵素の測定によりレトロウイルスの検出を試みたが全て陰性であった。

見出し語：川崎病，レトロウイルス

研究方法 川崎病患者の末梢血よりリンパ球を分離し，PHAおよびIL-2の存在下に培養し，毎日その培養上清を超遠心法により50倍に濃縮した後，ポリA-オリゴdTを用いたTTPの取込みにより逆転写酵素活性を測定した。

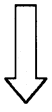
結果 日本赤十字センターの柳瀬義男博士より供給された4例の川崎病患者について検討した結果いずれの場合にも，有為の逆転写酵素活性は見出だされなかった。

考察 用いた培養系によりTリンパ球は良く増殖したので，昨年度の4例と合せるとこれらの細胞がレトロウイルスを産生する可能性は極めて低いと結論される。しかしTリンパ球以外の細胞がレトロウイルスに感せんしている可能性は未だ除外出来ない。従って別の条件を用いた検討が必要である。

発表論文
特になし。

Abstract

Peripheral blood lymphocytes were isolated from 4 patients with Kawasaki disease and cultured in the presence of PHA and interleukin-2. Every day, the supernatant was concentrated by ultracentrifugation and assayed for reverse transcriptase using poly(A)-oligo (dT) as template and primer, however, no significant activity was detected in every cases.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 川崎病患者のリンパ球を培養し,逆転写酵素の測定によりレトロウイルスの検出を試みたが全て陰性であった。